



地球上すべての人びとに平和に生きる権利を

9条地球憲章の会 第44回公開研究会

高原 孝生さんの講演

被団協の「覚悟」と核時代

2025年

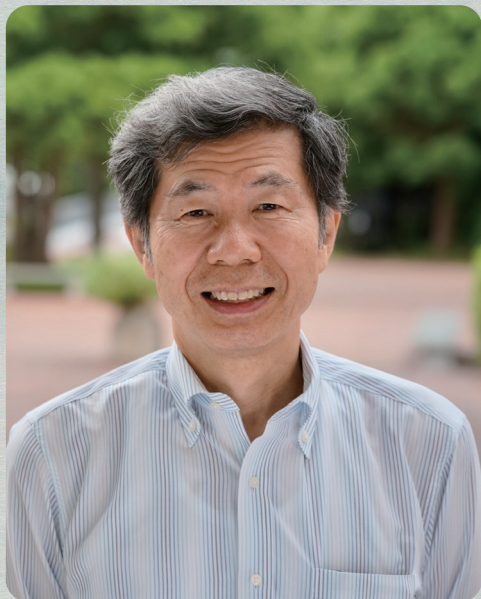
4月24日(木) 午後5時～7時

(諸事情で開催時間がいつもより早いのでご注意ください)

オンラインZOOMによる開催 参加費：1000円

参加申込みは、次のURLか、右のQRコードよりお願いします。

<https://forms.gle/AMjNfeir87aCBaxu6>



高原 孝生 (たかはら たかお)

★プロフィール

1986年明治学院大学国際学部の発足以来、政治学・国際政治学・平和研究・戦後史の関連授業を担当し、2023年3月に定年退職後も、非常勤を勤める。ゼミでは、沖縄・台湾・広島・長崎での現地学習を実施してきた。同大学国際平和研究所にも創設以来関わり、現在客員所員。明治大学院大学名誉教授。

NPO法人ピースデポ理事、日本パグウオッシュ会議運営委員、第五福竜丸平和協会理事、日本平和学会理事。1954年神戸生まれ。小学校からは東京で育ち、現在は横浜市民。

★主な著作

「戦後初期における核軍縮交渉の挫折」(『国家学会雑誌』1983)。

「地方自治体の平和政策」(英文)、1987。

「沖縄返還と日本の「非核」政策」(『国際学研究』1992)。

「日米軍事関係：非対称的統合から安全保障共同体へ」(英文)、1993。

「非核の北東アジアに向けて」(英文)、2004。

「冷戦思考の克服：核兵器禁止条約と非核兵器地帯の追求」(英文)、2013、など。

講演要旨

核時代は通常、広島・長崎への原爆投下に始まったとされ、今年はその80周年という節目の年です。折しも日本被団協が、昨年度のノーベル平和賞を受賞して、この年を迎えました。

ノルウェーのノーベル委員会が昨年発表した被団協への授賞声明文が見事だったこともあって、あらためて長年にわたる被爆者の方々の活動が再認識され、その果たしてきた役割が振り返られています。

今回は、本年の秋に広島で大会を開催する予定の「パグウオッシュ」運動が、被団協と同じく、1954年のビキニ事件を契機としてスタートしたという事情にも触れながら、いま私たちが直面する核時代の課題を、再確認したいと思います。

連絡先 9条地球憲章の会事務局 9.globalpeace@gmail.com

HP <https://www.9peacecharter.org/>

FB <https://www.facebook.com/9peacecharter/>